

企画展

竹ヒビビから海苔網へ

現代の海苔養殖技術の黎明

収穫間近に生長した海苔網の海苔
昭和30年ごろ

種付けの準備のために、完成した海苔網を
重ねて丸める 昭和20年以降

令和6(2024)年

4月16日(火)～8月18日(日)

開館時間 9:00～17:00(6～8月は19:00まで)

入館
無料

休館日 5月20日(月)、6月17日(月)～21日(金)、
7月16日(火)



おおもり のり
大森 海苔のふるさと館

〒143-0005 東京都大田区平和の森公園2番2号
電話 03-5471-0333 FAX 03-5471-0347
<https://www.norimuseum.com/>

企画展

竹ヒビから海苔網へ

～現代の海苔養殖技術の黎明～



『私達の海苔研究』第10巻 発行 昭和36年9月5日
 浅海増殖研究中央協議会
 全国海苔貝類漁業協同組合連合会



海苔網から海苔採り
 昭和37年1月29日撮影



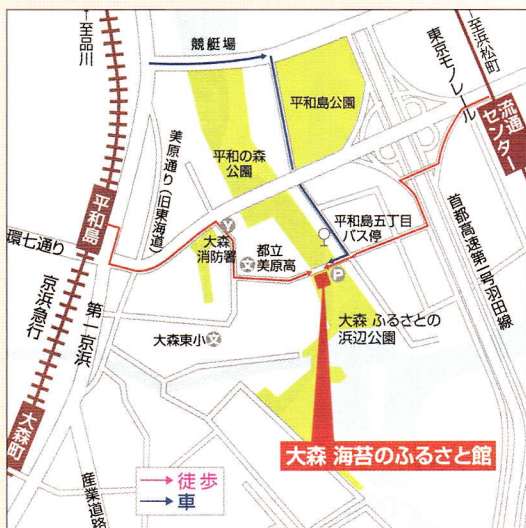
海苔網編み 昭和33年ごろ
 日高勝彦氏撮影

江戸中期から大正期までの約200年間、海苔の養殖資材として木ヒビと竹ヒビが使われましたが、材料の価格高騰や沖へ拡張する漁場に対応するために新たなヒビの研究が行われました。昭和初期には現在の海苔網の原型が誕生しました。

海苔網は、竹ヒビに比べて安価で軽く、製作が簡単でより多くの収穫を得ることができました。さらに、海苔網を使用することで、潮汐の影響を受けない海苔採りが可能になりました。海苔網の誕生は、海苔養殖に一大改革をもたらしたといえます。

昭和初期の海苔網の誕生と共に、新興漁場や水産試験場の実験地では普及が始まりました。大田区では羽田で昭和初期に実験が開始されました。しかし、大森では沖の漁場で使用する結いつけヒビが考案され、竹ヒビでの養殖が順調だったことから、海苔網が導入されたのは昭和20年代に入ってからです。終戦後、経済の復興や科学的な技術の導入、若者による研究会の発足などもあり、大森の海苔養殖は急速に技術の成長を遂げたのです。

今回の企画展では、海苔網の導入による海苔養殖技術の変化や、海苔網による海苔養殖の方法について取り上げます。漁業権放棄までのわずか20年弱の間に行われた海苔養殖の黎明期の姿を振り返ります。



お お も り の り
大森 海苔のふるさと館



〒143-0005 東京都大田区平和の森公園2番2号
 電話 03-5471-0333 FAX 03-5471-0347
<https://www.norimuseum.com/>

- | | | |
|------|---------|---------------------------------------|
| 利用案内 | 開館時間 | 9:00～17:00 (6～8月は19:00まで) |
| | 休館日 | 第3月曜日(祝日の場合は翌日)、 年末年始(12月29日～1月3日) |
| 交通案内 | 京急 | 平和島駅から徒歩15分 |
| | 東京モノレール | 流通センター駅から徒歩15分 |
| | JR | 大森駅から平和島循環バスで 「平和島五丁目」下車、徒歩3分 |
| | 駐車場 | 大森ふるさとの浜辺公園駐車場 30分100円 |